

---

# 短編ホラー集

レシオン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短編ホラー集

### 【Nコード】

N9331K

### 【作者名】

レシオン

### 【あらすじ】

ここは、少し古びたマンション。  
ところどころ頃にひび割れが見え始めているマンション。  
もうすぐ取り壊しが始まる。  
舞台は此处に起こった。

## 短編ホラー1（前書き）

あくまでも、素人ですのでそれほど怖くありません。  
思いつきなので感想等よろしくお願いします。

## 短編ホラー 1

ここは、少し古びたマンション。

ところどころ頃にひび割れが見え始めているマンション。

もうすぐ取り壊しが始まる。

舞台は此处に起こった。

少し町外れにそびえ立つマンションがあったマンションは、余り知られては居ないが姥捨て山のように年寄りを捨てるために使われておりマンションの裏には大きな穴があり死後其処の穴に亡骸を捨てられる。

何年にも何百年にも捨てられていているのにけして一杯にならず誰が亡くなった年寄りを捨てたのかも分からなかった。

そして、そこに不動産が訪れて土地を調べるためにやってきた。

マンションを取り合えず取り壊すために部屋を一つずつ確認するために階段に向かった、さすがにエレベーターの電源はもう点いていないと思いつつながら。

上りながら一つずつ確認していく。

そして、最上階の12階と屋上も確認して部屋には、タンスや布団などあったが死体などがなく安心して、ふと

エレベーターの電源が生きていることに気づきエレベーターに乗って降りようと思った。

其処にあるエレベーターには、鏡がついておりエレベーターの下りのスピードも遅く時々、がたごとなどと音が鳴り少し不安にさせたりする。

そして、チーンと音が鳴った着いたと思いエレベーターの扉の方を見るとまだ着いていなかった。

そして、今何階かを見ると丁度4回だったしばらくすると着くだろうと一息つくどふと鏡の方を見るとびたびた音が聞こえてきた、するとそこには先ほどまで居なかった老若男女が大勢居たそう鏡の向こうまで居たそして一気に背筋が凍る思いがして動けなくなった。

そして、老若男女に捕まり、老若男女達はこう言った。

さ

み

し

い

そして、かがみの中に連れられたいった。

そして不動産の人を見たもは誰も居なくなつたそれどころかその存在も忘れられた。

そのマンションで次の獲物を待っている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9331k/>

---

短編ホラー集

2010年10月28日02時54分発行